

# 委員会事業報告

## <第1種委員会>

2019年度は、Honda FCがJFL初の4連覇を成し遂げ、アマチュアチームナンバーワンの力を見せてくれた。天皇杯でも県代表決定戦を勝ち抜き、3年連続で本大会出場を叶え、更に本大会でもジャイアントキリングを起こし、ベスト8まで勝ち進んだ。東海リーグは藤枝市役所、矢崎バレンテFCが1部で戦い、それぞれ4位、5位と残留を決めた。2部リーグで戦った常葉大学浜松キャンパスFCは準優勝し、来季の1部返り咲きを決めた。2020年度は県内の3チームが1部リーグでの戦いとなり、活躍が期待される。県社会人は、マスターズの中部選抜が東海大会に出場したが、決勝でPK負けとなり、全国大会出場を逃した。県リーグの1位、2位が東海リーグ入りを懸けて、東海社会人トーナメント大会に挑戦したが、9年連続で東海リーグ入りを逃してしまった。2019年度は、「ゲームマナーの向上」を目標として掲げたが、未だ達成に至るレベルでは無く、2020年度も引き続き、目標として継続して行くこととする。

## <大学・高専委員会>

東海学生サッカーリーグ1部 (12チーム)

常葉大学⇒準優勝 静岡産業大学⇒4位

※常葉大学インカレ出場

東海学生サッカーリーグ2部 (8チーム)

※静岡大学2位 ⇒ 来季1部昇格(復帰)

東海学生サッカートーナメント兼総理大臣杯予選

※静岡産業大学⇒優勝 総理大臣杯出場

静岡県サッカー選手権大会 (天皇杯 JFA 98回全日本サッカー選手権大会 静岡県代表決定戦)

※常葉大学、静岡産業大学、静岡大学

⇒静岡県予選ラウンド敗退

I (インデペンデンス) リーグ東海

常葉大学 優勝 全国大会(仙台開催)出場

静岡県学生サッカー選手権大会

常葉大学 優勝

静岡県学生サッカートーナメント

1位 浜松医科大学 2位 静岡県立大学

※浜松医科大学…東海学生サッカートーナメント (棄権)

東海学生サッカーチャレンジリーグ

1位 常葉大学静岡キャンパス [地域⇒東海2部昇格]

※東海リーグ入れ替え戦⇒常葉大静岡 1-1 愛知教育大 (PK5-3)

全国高等専門学校サッカー選手権大会

出場なし

東海学生サッカーリーグは、常葉大学2位、静岡産業大学4位フィニッシュ常葉大学がインカレ出場を果たした。また静岡大学が2部リーグ2位となり1年で1部へ、常葉大学静岡キャンパスも東海リーグへの入れ替え戦に勝利し4シーズンぶりに2部へそれぞれ復帰昇格した。静岡サッカー百年祭の大イベントであったウルトラサッカーフェスティバルでは、学生選手権の決勝会場にエコパスタジアムを提供してもらするなど、大学サッカー発展にご支援ご協力を賜り、関係者を代表し厚く御礼もうしあげます。強化とエンジョイ両方の選択が可能な環境作りを目指していきたいと思えます。

## <第2種委員会>

令和元年度第98回全国高校サッカー選手権大会は埼玉スタジアム2002に現行の成人の日開催となって以来最大となる5万6025人の観客を集め、本県代表の静岡学園高校が青森山田高校を破り優勝を成し遂げました。静岡学園にとっては24年ぶり2度目そして初の単独優勝ということになります。そして本県代表にとっても24年ぶりの覇権奪回となりました。令和初の選手権優勝チームを静岡県から排出したことは平成の清水商業高校に続き快挙といえます。

本県代表の選手権優勝から20年以上の歳月が流れ「サッカー王国静岡」を復活させるべく、予選の方法もトーナメント方式に変更し勝負強いチームが代表になってくれると信じて4年目、県民の皆さんの目はやはり選手権で活躍してこそこの静岡県という思いがあり、各所から厳しいお言葉をいただきながら今年こそはの思いを強く感じて様々な強化策を講じての結果に我々もほっとしたというのが正直な気持ちです。

そのほか夏の全国総体には、清水桜が丘高校が出場となりました。沖縄県開催で猛暑の中の大会でした。1回戦は福岡県代表東福岡高校を破り期待されましたが2回戦で神奈川県桐光学園高校に終始優勢には進めつつもPK方式により敗退となりました。桐光学園が優勝したことを考えると非常に惜しい、悔しい結果でした。

年が改まり新人大会においては、藤枝東高校が優勝しました。静岡学園の全国優勝を受けより全国制覇を上位チームが感じられたようで来年度もプリンスリーグ所属チーム中心に覇権が争われそうな様相であります。

また茨城県で行われた国体の少年の部においても8年ぶり21度目の優勝を飾ることができました。国体も近年アンダー16化の中で苦戦が続く中、ブロック予選から劣勢を跳ね除けPK戦も経験する状態から粘り強く戦ってくれました。

令和元年度は非常に充実した年になりました。関係者、応援していただいた皆さんに感謝します。我々2種委員会としてはこの結果に安心することなく来年以降もできる努力はすべてして、良い成績を残し県民の皆さんに喜んでいただけるよう地道に活動していきます。

## <第3種委員会>

2019年度の3種委員会では、全国大会において、1月に行われた全日本U-15フットサル大会でSHIZUNAN FCが優勝を飾り、数年続く全国大会優勝を収めることができた。しかし、その他の全国大会では上位進出は阻まれ、今後課題を残す結果になった。3種役員、技術委員会、クラブ連盟など協力して今後の競技力向上を議論し、今まで同様に全国大会でも上位進出を図りたい。

県リーグについては、U-13、U-15ともに、3種の核となる活動として定着し、問題なく実施でき

た。各種大会については、熱中症対策や年度末に大きな問題となった新型コロナウイルスなど安全で且つ質の高い大会ができるように各方面と協議を重ねていきたい。また、スポンサー確保も今後の大きな課題となるが、中学1年生大会において、遠州トラックが冠スポンサーとなり、盛大に大会を開催することができ、他の大会においても大会の安定した開催のために継続して努力をしていきたい。

昨年同様、GSA 国際大会も台風の影響を受けながらも各方面の協力のもと無事に開催され、世界のサッカーと様々な文化に触れることができたことは、選手だけでなく指導者にとっても大変貴重な経験となった。

少子化の影響もあり、登録者数の減少に歯止めをかけるために、対策を検討していくことも大きな課題であり、サッカーファミリーを強大にすべく、指導者の資質向上、審判員の増加にも今後も力を入れていきたい。

## <第4種委員会>

2019年度重点目標として

①サッカーの普及に努め4種登録人数増加を目指す。②指導者の意識改革と指導者資格の義務化。③選手の安心と安全に楽しむ権利の普及と推進。④選手の育成と示唆。⑤リスペクトの啓蒙⑥危機管理の推進と6つの目標を掲げて活動してまいりました。

登録人数増加については、県4種と各チームがそれぞれ対策を講じていますが登録人数の減少は歯止めが効いていません。少子化・スポーツの多様化等登録人数の増加を期待できる条件が揃っていませんが、重点目標の②～⑤を着実に推進していけば必ず実を結ぶと信じ今後も実行してまいります。

2019年度はウエルフェアオフィサージェネラルの資格を各支部1名以上の役員に取得してもらいました。2020年度はウエルフェアオフィサージェネラルが各支部で、講習会を数多く実施し、指導者・保護者のきめ細かな指導をしてまいります。

2020年度もプレーヤーズファーストを第一に考えながらも活動してまいります。

## <女子委員会>

### 【レディース】

0-30 静岡代表として参加出来るメンバーが集まらず全国レディースの東海大会を辞退した。いまままで参加していたメンバーが年を重ねたこともあるが、三重県のレベルが高く東海大会へ参加するモチベーションが無いのも原因の一つではないかと思う。全国大会を静岡県でやるのであれば、以前はあった『開催県枠』を設けてほしい。

0-40 全国大会にオール清水レディースが参加予定(3/20～3/22 兵庫県三木市)。静岡県のレディース部門を長年引っ張ってきた清水なので今後も継続して頑張ってもらいたい。

レディース県大会は各支部の交流も兼ねて毎年開催している。チーム継続が困難になってきた所もあるが、県内のレディース選手が交流できるのはこの大会しかないので継続できるようにしていきたい(参加資格の緩和等)。子供を産みママになってサッカーに戻ってきたメンバーなども居るのでサッカーが出来る環境がなくならないようにしていきたい。

#### 【U-18】

夏のインターハイは沖縄県開催であった。藤枝順心高校出場したが、惜しくも1回戦敗退となった。冬の選手権大会には、藤枝順心高校、常葉大橋高校の2校が出場。常葉大橋高校は1回戦PKで惜敗したが、藤枝順心高校は総体の屈辱を晴らし、見事に全国制覇を果たした。この年代の本県のレベルの高さを感じることができた。ただ、県内の高校生年代のサッカー人口は多いとは言えず、小・中学生への普及が今後の課題であると考えられる。

#### 【U-15】

全日本U-15選手権静岡県大会は、昨年同様14チームが参加し、上位5チーム（JFAアカデミー福島・常葉橋中学・藤枝順心 SCJY・浜松泉 FC・アスルクラロ沼津）が、6月に静岡県（エコパ人工芝・ゆめりあ）で開催された東海大会に出場。

東海大会出場5チームのうち3チーム（常葉橋中学・JFAアカデミー福島・アスルクラロ沼津）が7月の全国大会に出場。アスルクラロ沼津と常葉橋中学が1回戦敗退、JFAアカデミー福島が3位となった。

U-15女子ジュニアユースリーグは、2020年度の大会改革の準備段階のリーグとし、8チームを2ブロックに分けたリーグを実施、各ブロック上位2チームによる順位決定戦を行い、優勝したジュビロ磐田レディースが、2020年度公式化される東海U-15リーグのチャレンジ戦に出場したが東海U-15リーグ8位の浜松泉FCとの入替戦に引き分け、昇格を逃す。

また、今年度は東海U-15リーグに参加している3チームがセカンドチームを参加させ、オープン参加の2チームと5チームでのリーグも併せて実施した。

2020年度の公式化へ向けプレ開催された東海U-15リーグに参加していた5チーム（JFAアカデミー福島・常葉橋中学・藤枝順心 SCJY・静岡翔洋中・浜松泉FC）は、次年度のリーグへの残留が確定した。

2020年度の大会改革へ向けた準備は進めているが、静岡県U-15女子の大会がより良い大会になるように、大会運営の取決めの強化や参加チームを増やす取り組みを行っていくことが必要と考える。

#### 【U-12】

U-12女子は、2019年度は、ラガツァ焼津が多くのタイトルを獲得する活躍を見せた。また、静岡カップにおいても、静岡県トレセンチームが優勝、静岡ユース大会においても、各都県が24チーム参加した中で、Fine静岡が無失点優勝するなど大いに活躍した1年であった。ただ、その活躍の一方で、少子化問題でサッカー人口が減少する中、U12女子の登録チームが、単独チームとして試合にエントリーできるチームが減少してきている傾向にある。これらを解消していくためには、4種委員会・女子委員会・キッズ委員会・フットサル委員会とともに、フェスティバルやサッカー教室の実施等、静岡県全体へ地道な活動をしていく必要があると考える。

今後は、U-15でも、子どもたちがサッカーを続けられるような地道な普及活動を継続していくことが大切であると感じている。さらに、最も大きな課題であり難問でもある女性指導者の不足、育成である。

女子委員会は年代の隔たりがない組織であるため、これらを今後の重要な検討課題として捉え、課題解決に取り組んでいかなければならないと考える。

### 【県リーグ】

今年度は1部12チーム2部8チームの計20チームが参加。6月2日の開幕戦を始め、12月までの期間で全94試合、異なった年代が熱戦を繰り広げた。1部優勝がアスレジーナ、2部優勝が泉FCであった。アスレジーナは次年度東海リーグ入りを決めた。

リーグ運営としては1日、試合日前日の天候不良により延期となった会場もありましたが、別日別会場で試合を組み込むことが出来、年内に終了することが出来た。

年々、各カテゴリーが整備されていく中でスケジュールの調整等が難しくなっていますが、4種、ジュニアユース、ユースの育成年代が終了してからのサッカー好きの女性たちが生涯スポーツとしてサッカーを真剣に楽しむ環境としては、この県リーグの存在意義はとても大きく、今後も異なったカテゴリーが混在するリーグが発展反映する事を切に願っております。

### 【皇后杯】

皇后杯静岡県大会は、16チームが参加した。東海リーグ1部所属チームは県大会が免除され、東海大会からの出場となっているため、東海大会出場1枠を懸けた戦いとなった。県大会はルクレMYFCが優勝し、東海大会出場権を獲得した。

今年度は、静岡県大会準決勝と東海大会2日目に台風の影響を受けた。開始時間を直前に変更したり、東海大会の決勝戦を中止にしたりとイレギュラーもあった。

全国大会には、静岡県からなでしこ2部の静岡産業大学ボニータと東海大会を勝ち上がったJFAアカデミー福島、藤枝順心高校が出場した。JFAアカデミー福島、藤枝順心高校が2回戦まで進出、静岡産業大学ボニータがベスト16に進出した。

東海大会の組み合わせには、東海リーグ1部の成績が影響するようになり、リーグ戦も活性化される。

また、次年度は静岡県大会決勝の日程が2週間前倒しになっているため、他の大会やリーグ戦とも重なり過密日程になることが予想される。そのため、静岡県大会をスムーズに進めていくためにも、各支部へ代表チームの早期決定の協力をいただき、大会を運営していく必要がある。

### 【女子技術委員会】

全日本女子ユース(U-15)選手権大会では、JFAアカデミー福島が3位、高校選手権では、静岡学園と共に藤枝順心高校が優勝し、静岡県サッカー協会100周年のこの年に結果がでたことで大きな話題となりました。国民体育大会では本大会への出場を逃しましたが、なでしこリーグ1部の選手が多い三重との試合は好ゲームで大学、高校生にとっては自信につながる試合となりました。今年以上の成績を出す為にも、今年と同様に指導者講習会を行うことや、未経験者を対象にした普及活動を行うなど、底辺拡大にも取り組んでいきたい。また、国体少年女子U-16がいよいよ強化をスタートすることになります。県トレセンを含め、各チームとも連携しながら2021年のプレリーグを目指して準備していきます。

### <シニア委員会>

2019年度、静岡サッカー百年の年、記念すべき年に全国大会で優勝というタイトルを手にすることが出来たのか・・・、O-70(静岡県選抜)は4年連続のブロック優勝、O-70大会も他カテゴリー同様次年度からチャンピオンシップ制に移行、いよいよ70歳代も全国一を目指して熱い戦いがスタートします。O-60(清水クラブOB)は東海予選敗退。開催地枠(藤枝FC)は、昨年度同様

他チームより6名の選手を補強、準決勝PK戦の末敗退したものの全国3位。O-50（駿府FC）は東海予選敗退。O-40（藤枝FC）は、2年前の準優勝のリベンジを目標に臨むも、準決勝PK戦の末敗退の全国3位。 全国一のタイトルはないものの2チームが全国3位の成績であった。

リーグ戦では、熱中症防止対応として、全クラスを7月中旬から8月中旬の1ヶ月間の中断期間を設けて運営。それが奏功したのか熱中症等の事故報告はなかったが、二つの台風の影響により2020年1月末での全試合終了となった。夏季の中断期間を設ける事、会場の確保状況、悪天候による順延等で、今後、リーグ戦は当年4月開幕～翌年2月終了の運営期間が必要と思われます。リーグの課題として、全クラスの成績に言えることだが、あまりにも地域差があり過ぎる点であり、成績が低迷している地域チームの奮起を熱望したい。

リーグ実行委員会は中部支部所属チームで、駿府FC及び静岡横内シニアが素晴らしい運営を2年間担当していただきました。有難うございました。次年度は中西部支部所属チームで藤枝FCが単独で担当します。

## <フットサル委員会>

事業運営の面では、公式戦の基幹となる各年代でのリーグ戦の運営はもちろん、東海関連事業や、県内では初めての開催となったU-18全国大会の主管業務など多種事業にわたり、大きな問題や事故なく遂行できたと思います。ただ、年度最後の全国大会、全日本フットサル選手権のエコパ開催が、新型コロナウイルス感染防止の目的により中止となってしまったことは残念でした。

選抜活動の面では、男子、女子共に全国大会への出場は果たせませんでした。選手選考から各練習日の活動、スタッフ間の連携など、組織としてしっかりと運営できたと思います。さらなる組織力のアップ、選手たちの競技力の向上へ向け、大会に合わせた短期の活動と長期的な期間での強化策を実施していきたいと思います。

普及活動の面では、各年代別の4種交流戦や、県内3か所で開催したJFAファミリーフットサルフェスティバル、一線を退いたシニア選手による大会などを開催できました。特に100年祭に合わせ、静岡県主導で行った東海地域の4県によるシニア大会、ユース年代（U-18）の大会、あるいはJFAタレントキャラバンの併催など、非常に充実したものとなりました。引き続き、静岡県らしく、単なる競技だけではなく、ボールを蹴る楽しみに触れる機会を数多く開催したいと思います。

フットサル登録については、北海道、東京都に次ぐ全国第3位の登録者数を維持しています。しかしながら、今後、サッカー競技同様に登録人数の減少も考えられるため、より充実した県内事業を創設したいと思います。特に、全国屈指の登録数を誇る4種においては、前出の4種交流戦のさらなる活性化を目指したいと思います。

静岡県内唯一のFリーグ参戦チーム「アグレミーナ浜松」は、今季よりF2リーグへの参戦となってしまいました。成績も中位にとどまり1部復帰は果たせませんでした。フットサル委員会では引き続きその開催会場の確保や運営への協力、運営ボランティア参加への働きかけ、集客へ向けた取り組みへのサポートなどを継続していきたいと考えています。

フットサル委員会全体としては、オリンピックイヤーとなる次年度に向け、これまで通りの県内リーグ戦や各種大会の運営はもちろんですが、役員間の情報共有を密に、より良いフットサル環境を県内に築きたいと考えます。

## <キッズ委員会>

JFA キッズキッズプログラム、キッズエリート育成事業では、県下 16 ヶ所において、フェスティバル、指導者養成講習会、保護者研修会、J リーグアカデミーとの交流、キッズエリートの開催を毎年実施出来ることは、キッズ委員会に携わる指導者の方たちが、常に、子供たちのことを考え、色々な活動をしてきているからであるし、今年度も、キッズの活動に対し、J リーグの清水エスパルス、ジュビロ磐田、アスルクラロ沼津の協力も得られることが非常に大きな力となっている。特に、エリート活動や、巡回指導の中では、J リーグの関りが大きいと感じる。良い指導者と良い環境があれば子供たちが集まり、共に、サッカー人口が増えることが期待できるし、保護者にとっても、J リーグの育成部門の指導者がわが子に指導してくれることは非常に有り難いことだと思う。

キッズ普及事業では、キッズ年代 (U-6) の子どもたちに、サッカーの交流試合を通じて運動や身体と心の発育発達を伝え、子供と保護者が運動の喜びと家族の絆を強くする目的とサッカーの普及が目的で、各支部において実施できたことが成果であり、試合を通じて、身体を動かすことの喜びを教え、心では、生きる力を身に付けさせながら将来への夢を持たせられたと思う。

JFA キッズサッカーフェスティバルでは、キッズ年代 (U-6~U-10) の子どもたちに、広々としたサッカーグラウンドで、サッカーを通じて運動や身体と心の発育発達を伝え、特に運動では身体を動かすことの喜びを教え、心では、生きる力を身に付けさせながら、将来への夢を持たせる事を主眼に活動できた。

これらの事を踏まえて、来年度にはさらに工夫して如何にキッズ年代の参加者を増やすかを考えて実施していきたい。

## <技術委員会>

老若男女、健常者も障害をもった人も、こんなにサッカーを身近に感じる県が日本にあるだろうか？静岡県は間違いなく「サッカー王国」だと思います。今後もこの環境を維持・発展させることこそが静岡県サッカー協会技術委員会の役割だと考えています。

新年号の幕開けは日本全国に静岡サッカーを強烈にアピールできた素晴らしい年になりました。これで満足するのではなく継続的に成果を上げ、発展させなければならないと考えておりません。

未来のサッカーのために、今なにをしなければいけないかを技術委員の皆さんが考え、各種別のご理解、ご協力があったからこそその成果だと思います。ありがとうございました。

### 令和元年度の成果と課題

#### ① 静岡県国体チームの成績

成年男子→茨城国体第 5 位

成年女子→東海予選敗退 (東海代表 三重県 茨城国体優勝)

少年男子→茨城国体 優勝 (8 年ぶり)

理事会のサポートを受け新たに強化委員会の指導体制の変革をして全種別良い方向に進んでいると思いますし、成果も徐々に出てきました。

## ② 指導者養成事業の充実

選手を変えられるのは選手に関わる多くの人達で、特に指導者の役割は重要で責任があります。そう考えると指導者養成に関してはとくに重要性を感じました。

本年度も指導者による問題行動がありました。今の時代指導力の中には、言葉使い、コミュニケーション能力、マネージメント能力、人間力、情報収集能力、行動力などいろいろなものが必要です。

例えばヨーロッパでは育成年代のチーム評価は大会結果だけではなくチーム運営、組織運営、指導体制、指導環境などを重要視しています。いつか静岡でもそのような体制で評価され多くの人が静岡サッカーに興味関心をもっていただけるようになれば素晴らしいと思います。

## ③ 女子の環境整備

まず感じるのは人手が足りないということです。女子サッカーに関わる人をもう少し増やす事で色々なことが実現可能になってくるのではないかと思います。

SBS CUP では1試合ではありましたが女子の試合を前座試合として、入れました。

令和2年度は全ての試合前に前座試合を入れる予定です。また、国体少年女子U16の部が令和4年度実施されるのを受け、令和2年度から本格的に強化をはじめめる計画をしています。

女子の選手達が安心安全に活動できる環境作りを少しずつ確実にやっていかなければいけないと年々思いが強くなっています。

## ④ GK強化、育成

GK担当部門を作り、東西に長い静岡県をカバーできる体制を作り、令和元年度は、多くの指導者の方にGK講習会等に参加していただきました。ゴール型のスポーツではGKが重要であることがようやく理解されつつあると感じていますが、4、3種でのGKコーチがまだまだ足りない状況です。令和2年度からは4、3種のGK育成・強化にポイントを置いて指導体制を整える予定です。

## 令和2年度 重点目標

- ①国体総合優勝（3種別 鹿児島国体出場 ベスト4以上）
- ②静岡女子サッカーの環境整備
- ③指導者養成事業の充実
- ④4、3種のGK育成・強化
- ⑤各カテゴリー代表チームの全国大会での活躍→静岡育ちの選手が世界で活躍

静岡県技術委員会としては、感動するゲームを1試合でも多くを目標に頑張っていきたいと思えます。美しくなければ感動しません、指導者はそれぞれ美しいサッカーを目指して頑張ってもらいたいと思えます。

今後とも県技術委員会の提案・活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。

## <審判委員会>

2019年度の登録者数は、昨年と大きな変動はなく約14,150名だったが、ユース審判員の登録者数は年々増加している。2019年度のユース審判員の登録者数は約4,800名と、5年間で約500名増えており、審判委員会はこのユース審判員の普及・育成に特に力を入れている。毎年、7月にゆめり



あで開催される磐田 U-12 国際サッカー大会を使用したユース審判員研修会では、今年度はじめて宿泊研修を取り入れたことにより、育成だけでなく強化にも着手でき、より充実した研修会を実施することができた。その他、7月5～7日に、山梨県韮崎市にて、神奈川県協会、山梨県協会と行っている3県交流事業でも、3県のユース審判員を集めた研修会を実施、8月3～4日に時之栖にて宿泊研修会を行った。その他各支部でもユース審判員のレフェリースクールをはじめ、多くの研修会を実施している。

これら研修会の成果もあり、2019年12月に鹿児島で開催された全日本 U-12 サッカー選手権大会では、静岡県の代表として大会に参加したユース審判員の荒木志苑氏が、準決勝の主審を担当することができた。また、2020年1月18日、19日には、高等学校新人戦の1・2回戦21試合の主審を初めてユース審判員が担当し、すべての試合で無事笛を吹ききることができた。静岡県のユース審判員に対する取り組みは、JFAでも各都道府県FAの成功事例として紹介をされた。

登録者数150,000名を目指した取り組みの中で、2級、3級審判員の増加にも力を入れており、この取り組みを始めた2016年度から、S3級が約90名、S2級審判員が25名増えている。徐々に取り組みの成果も出てきているが、年度末から全国で感染が拡大してきた、新型コロナウイルスの影響が、審判員登録者数にどの程度影響が及ぼすかが心配である。

## <チャレンジド委員会>

令和元年度の当委員会事業は、県協会、支部協会、県種別委員会等との連携及び協力により、1月までは、ほぼ予定通り実施できましたが、新型コロナウイルスの関係で、2、3月は、活動が自粛となってしまい、残念な思いをいたしました。今だからできることを模索していきながら、ピンチをチャンスと捉え、とにかく命を大切に来年度につなげていければと考えています。

今年度も例年通り、理事会4回、総会1回を行い、県協会の傘下のもと、チャレンジド委員会としての大会運営、情報の共有、共通理解を図ってきました。

チャレンジド委員会として、4年目の活動が終わりましたが、県協会の多大なる御理解、御支援を毎年いただき、活動も滞りなく進めることができました。2020年のオリンピック・パラリンピック開催が、1年延期となってしまいましたが、引き続き、日本協会のグラスルーツ推進部が大切にしている「インクルーシブ」の考えのもと、当委員会が、全国の体制作りを構築していくことができると考えています。そのことが、障がい者のサッカーを社会にひろめることで、つながりを大切にしていきたいと思っていますので、県協会の関係者の皆様の引き続きの御支援・御協力をよろしくお願いします。

また、1月に行われた第5回静岡障がい者サッカーフェスティバルなどを通じて、「つながり・共有・発展」をコンセプトに、今後も交流の輪をひろめていき、他の6団体（聴覚障がい者サッカー、脳性まひ者サッカー、視覚障がい者サッカー、アンプティサッカー、電動車椅子サッカー、精神障がい者サッカー）とも連携が取れてきました。昨年度は、立ち上がった視覚障がい者のサッカーチームも多くの人たちの御支援のもと活動も順調に行えています。強化でも、高校生年代の強化が進み、全国大会での活躍が楽しみでしたが、知的障がい者のサッカーの全国大会が2つ共中止となってしまい、残念でした。

今年度も各種大会では、ボランティアとして、2種や3種のサッカー部や、審判委員会にも協力をしていただいたおかげで、大会運営を滞りなく行うことができました。多くの人達との関わりの中で、様々な障がい者のサッカーへの理解、啓発の幅を拡げていくことで、障がい者のサッカーを

知っていただく機会を今後も増やしていければと考えています。今後とも県協会の御協力をお願いします。

最後に、コロナウイルスの1日も早い終息を願い、各種別・各委員会の皆様の本年度1年間の活動・御協力に感謝申し上げます、事業報告とさせていただきます。

### 【各大会について】

- 第9回日韓知的障害者サッカーフェスティバル 5月18～19日(土・日)  
会場：清水ナショナルトレーニングセンター(J-STEP)  
静岡県選抜U-18-仁川広域市選抜
- 第17回静岡チャレンジド・サッカーフェスティバル 5月26日(日)  
会場：つま恋グラウンド  
「富士山カップ(一般の部)」 優勝：西部教室A 準優勝：東部教室アススクラロジヤンブ  
「富士山カップ(高等部)」 優勝：南の丘分校A 準優勝：城北分校A  
「駿河カップ」 優勝：R a u m 準優勝：F O F C  
「浜名湖カップ(Aリーグ)」 優勝：東部教室B 準優勝：清水アルミナス  
「浜名湖カップ(Bリーグ)」 優勝：袋井特支B 準優勝：東部教室C
- 全国知的障害者サッカー交流大会2019 8月3・4日(土・日)  
会場：時之栖スポーツセンター
- 第20回静岡県障害者スポーツ大会(わかふじスポーツ大会)
  - ・サッカー：9月8日(日)  
会場：小笠山総合運動公園・人工芝ピッチ他  
「Aブロック」 優勝：西部教室A 準優勝：東部教室アススクラロ・ジヤンブ  
「B-1ブロック」 優勝：F O F C 準優勝：R a u m B  
「B-2ブロック」 優勝：御前崎分校 準優勝：袋井特支OB/OG A  
「B-3ブロック」 優勝：浜松特支 準優勝：吉田特支  
「B-4ブロック」 優勝：駿遠学園ユニコーンズ 準優勝：袋井特支A  
「B-5ブロック」 優勝：焼津分校 準優勝：南の丘分校A  
「C-1ブロック」 優勝：西部教室B 準優勝：中西部教室B  
「C-2ブロック」 優勝：清水アルミナス 準優勝：浜名特支  
「C-3ブロック」 優勝：富士山ドリームビレッジ 準優勝：袋井特支OB/OG B  
「D-1ブロック」 優勝：八幡中学校 準優勝：静大附属特支  
「D-2ブロック」 優勝：静岡北特支 準優勝：袋井特支B  
「D-3ブロック」 優勝：東部教室B 準優勝：磐田見付分校B  
「D-4ブロック」 優勝：城北分校B 準優勝：東部教室C
  - ・フットベースボール：9月15日(日)  
会場：静岡県立吉田特別支援学校グラウンド  
優勝：清水特支 準優勝：静大附属特支ドリーム
- 協和医科・オズカップ 第10回チャレンジド清水サッカー大会 9月29日(日)  
会場：蛇塚グラウンド  
優勝：日軽金オーリス 準優勝：清水特支A

- 第19回全国障害者スポーツ大会「いきいき茨城ゆめ大会2019」  
※台風19号の接近・上陸に伴い、中止
- 令和元年度もくせい杯 県大会 11月30日(土)  
会場：蛇塚グラウンド  
優勝：南の丘分校 準優勝：沼津特支
- 第5回静岡障がい者サッカーフェスティバル大会 1月11・12日(土・日)  
会場：清水ナショナルトレーニングセンター(J-STEP)、IAIスタジアム日本平  
「知・一般・スタンダードA」 優勝：静岡FC 準優勝：東部教室アスクラロ・ジャンプ  
「知・一般・スタンダードB」 優勝：Raum B 準優勝：西部教室  
「知・一般・エンジョイA」 優勝：静岡北特支 準優勝：静大附属特支  
「知・一般・エンジョイB」 優勝：吉田特支 準優勝：清水特支  
「知・一般・エンジョイC」 優勝：日軽金オーリス 準優勝：静岡SS  
「知・中学生」 優勝：エスペランサA 準優勝：藤枝市立高洲中学校  
「知・招待」 静岡県選抜 2-0 横浜F・マリノス フトゥーロ  
「電動車いすサッカー」 優勝：Team Dream 準優勝：Gorila  
「ソーシャルフットボール」 優勝：エンギア静岡 準優勝：VACS-GELA 静岡  
「アンプティサッカー」 優勝：Aチーム
- 第5回全国知的障害特別支援学校高等部サッカー選手権大会「もうひとつの高校選手権」  
2月15・16日(土・日) 会場：藤枝総合運動公園、藤枝市民グラウンド  
優勝：愛知県立豊田高等特別支援学校 準優勝：東京都立志村学園  
(静岡県立静岡北特別支援学校南の丘分校：2回戦敗退)
- 第17回コーチャーズ杯争奪 時之栖サッカー大会 2月22日(土)  
会場：時之栖スポーツセンター  
優勝：富士宮分校 準優勝：沼津特支

## <マッチコミッショナー委員会>

日本協会のマッチコミッショナー(MC)登録制度を受け、県マッチコミッショナー委員会が設置され3年を終了した。

マッチコミッショナー委員会を通しての派遣は、プレミアリーグ及びプリンスリーグ東海、天皇杯県予選準決勝及び決勝、女子の全国大会に通じる大会の準決、決勝等に派遣要請があり、その任務を果たしてきた。

今年度はスルガカップ(天皇杯静岡県予選)、高田宮杯プレミアリーグ、プリンスリーグ東海、男女インターハイ予選、高校選手権県予選の他、東海社会人リーグへも派遣された。

また、これらの試合のMC活動を実施するにあたり、新人教育や報告書に問題があるMCへの同行指導及び来年度に向けた研修会(3月)を実施した。

11月には新規及び昇格MCの推薦者決定の要請があり、MC委員会役員での推薦委員会を実施し、各支部、種別、委員会からの推薦者について審議し推薦者を決定した。その結果として、興津純男氏がJFL担当MCに昇格し、新規47FAMCとして1種(大学)の成島徹氏と中西部支部仲村昌倫氏の2名が認定された。